

文人 渡邊 青洲

(一八四〇—一九一一)



明治42年6月撮影

初代市川大門村長を務めた青洲は文人でもあった。

書画を王廷章に学んだということだが、この人物の生卒・経歴は不詳である。渡邊まさ子様(青洲三男夫人)の話によると「辮髪を結び、踵まで伸ばした髪をパンパンと蹴りながら歩いていた。おそらく亡命貴族ではなからうかと……。」

また、唐の顔真卿(七〇九・七八五)の書もよく学んでいる。

明治三十一、二年作の臨書折帖「寒燈楽事」には真卿を臨書したものが多し。近藤椎山翁(南部町生まれ)の楷書も顔法である。

明治三十九年に発行された「青洲文庫古板書目」の法帖の部から真卿のものを跋すると

争坐位稿	二帖
家廟碑	八帖
大唐中興頌	二帖
三表	二帖
麻姑仙壇記	一帖
唐故右武衛將軍牌	一帖
公關齋會報徳記	二帖
東方朔画讚	一帖

黒竹図

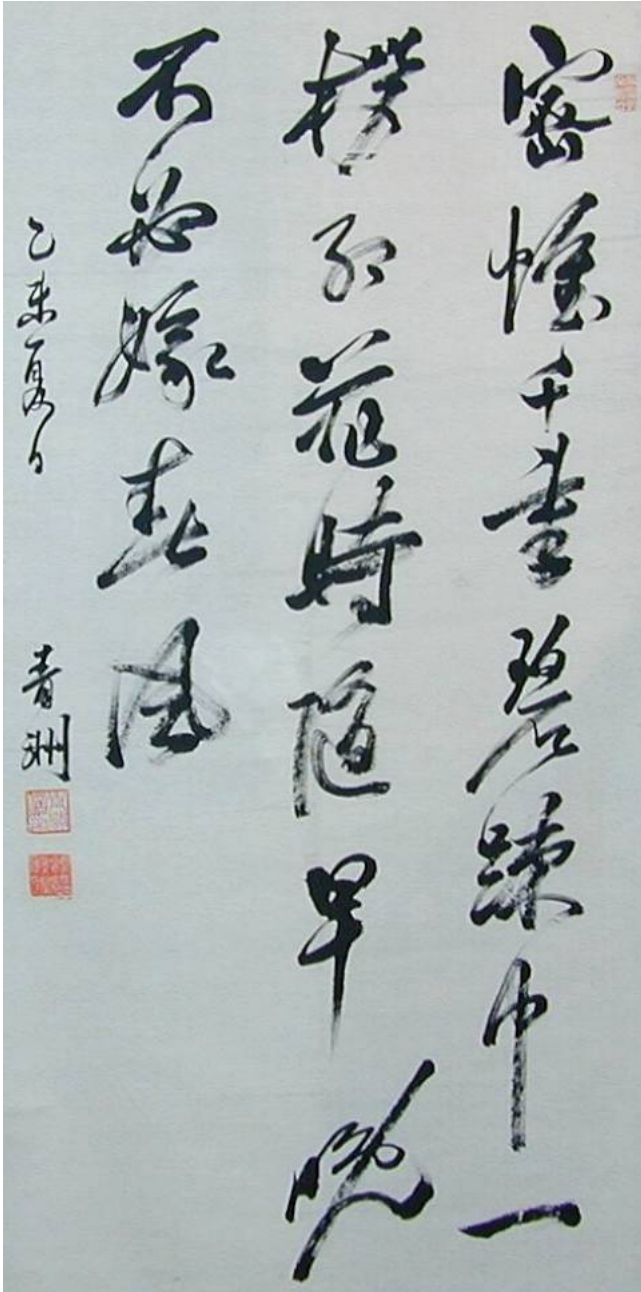
明治二十八年(一八九五)



136.0×49.0

五言絶句

明治二十八年(一八九五)



137.0×68.0



道義貫心肝

明治三十年（一八九七）

178.0×48.0

折帖 四君子画法

明治三一年(一八九八)



蘭



菊

海鶴図

明治三十四年(一九〇二)



150.0×70.0

牡丹図

明治三十五年(一九〇二)



119.0×34.0